

[特別活動]

職場体験学習における活動計画構成と指導の工夫

—人との関わりの中で一人一人が自己を見つめ、積極的に体験活動に取り組む生徒を目指して—

渡辺 光*

1 はじめに

中学校での進路学習とは単発的に行うものではなく、3カ年を見通して系統的に行うものである。1年生は「進路の方向付けと探索」の段階で、主な職業の名称や内容など、職業全般について学ぶとともに、自己の興味・関心について考える活動を行う。2年生は「進路探索の強化」の段階で、職業を希望や興味だけではなく、自己の能力や性格、価値観などの面から見つめるようになる。進路に対する迷いや不安が出てくるのもこの時期であり、この迷いや不安をどう抜け出していくかが、3年生の進路選択の大きな鍵になる。この時期に職場体験学習や自己分析、自己理解に関する活動を多くの学校で行うのもそういった理由からだと思える。3年生は「進路実現の準備」の段階で、否応なく進路の最初の岐路に立ち選択の意志決定に迫られる。進路先の詳しい内容を調べる活動を行い、進学や進路を自己のものとして固め、実現していく時期でもある。そして、三者面談等の相談活動を経て、自己の進路決定に至る。これがおよそ中学校での進路学習の流れである。このように見ていくと、とかく3年生の進路指導が重要であると考えがちであるが、実際は1、2年生の段階、特に2年生での進路学習が、進路を自分のものとして主体的に考えていく上で重要になってくる。そのため、現在、多くの学校で進路学習の一環として「職場体験学習」を実施している。普段は体験できない「職場」という環境での体験学習を通して、働くことへの責任感や苦勞を知り、社会の一員としての自覚をもたせること、そして、自らの将来の方向性を見いださせると共に、今、将来のために自分が何をなすべきかを考えさせることを主なねらいとしている学校が多い。この体験学習を生徒にとって実り多きものにするためには、生徒の自己決定場面の設定、体験に対する目的意識の醸成、体験内容の充実が重要である。私の勤務する学校でも、毎年2年生で職場体験学習を実施している。14年度、15年度、は夏休みに1回（1日）、10月に1回（1日）の合計2回（2日）行った。夏休みの1回は教師側で設定した職場の中から自己選択（希望が多い場合は人数調整を行った）し、10月の2回目は自分の希望職種に合う職場を自分で探し、連絡を取り体験先を決定し、学年生徒全員が同じ日に実施した。生徒の多くは楽しそうに体験しているようであったが、中には目的を見失い、学校生活の延長ととらえて体験学習に参加している生徒も見られた。職場からの評価の中にも「学習態度はまじめで好感がもてました」という感想を頂いた反面、「生徒が場所を選んで体験を希望したと聞いたが、目的意識が感じられなかった」という厳しいご意見も多く寄せられた。また、「約束時間が守れない」「体験中に歓声を上げるのは控えてほしい」「友だち同士の会話にも気を配った方がよい」といった、言葉遣いやマナーなどに関することでも多くのご指摘を頂いた。

せっかく得た貴重な体験の機会を有意義なものにするためには、単に「仕事を体験する」「仕事を見学する」だけでなく「進路学習」に位置づけて体験に臨む生徒の意識を高めることが大切なのではないだろうか。また、普段の生活を見直させる良い機会とし、社会人としてあるべき姿を学ばせることが重要なのではないだろうか。このような課題意識をもって、本研究では充実した職場体験学習を展開するための具体的な方策を15年度の反省点などをもとに明らかにしながら、実践をもとに進めていきたいと考える。

2 研究の目的と方法

15年度の事業所から頂いた評価を見直していく中で、次のような課題が浮かび上がってきた。

- ・課題①「お客様で終わらずに、1日を大切に」「もう少し積極的に取り組んでほしかった」「体験学習に来たからには学ぶ面からも、その場で疑問をもち質問ができるくらいになりましょう」などの評価から、1日の体験学習ではただ見学だけで終わってしまい、本来の目的を達成できないのではないかと。

* 上越市立直江津中学校

- ・課題②「体験学習の目的を生徒一人一人が事前にしっかりと心構えておいてほしいです」「誰も質問がなく、生徒さんが選んで体験を希望したと聞きましたが、目的が感じられませんでした」「接客業なので、明るく元気な態度で学習してほしいです」などの評価から、活動前の確実な意識付けとともに、自己の特性等を考え体験先を選択させる必要があるのではないかと考えました。
- ・課題③「大きな声での返事が欲しかった」「社内のルールを守る、元気で明るい生徒さんをお待ちしております」「あいさつなど、もう少し丁寧にしてほしいです」などの評価から、あいさつや言葉遣い、マナーなどのしつけ面の指導を重点的に行う必要があるのではないかと考えました。

そこで、上記の課題を解決することを目的とし、今年度の実施にあたり、下記の改善策を計画し実践を試みました。

- ・課題①に対しては、高等学校で行われているインターンシップや兵庫県が実施している「トライやるウィーク」の例を参考に、1回に複数日実施し、見学だけでなく実際に体験させていただける仕事があればできる限り体験させていただけるよう、事業所に依頼してみる。そして、複数日仕事の体験を行うことで、自ら疑問点を見いだすことができるのではないかと考えた。日数については、兵庫県の場合は1週間実施しているが、15年度までの流れを考えると、1週間引き受けてくれる事業所はないだろうと考え、夏休み中の4日間以内とした。
- ・課題②に対しては、1年生の時に実施した進路学習を想起させる手だてを行い、生徒自身の進路に対する考えに継続性と主体性をもたせるように心がける。体験先を考える前に簡単な進路適性検査を行い、自己の適性についても考慮させながら体験先を考えさせる。体験先については、生徒自身が体験したい職種を自己決定し、その職種にあった事業所を教師側で探す。したがって生徒は自らの興味や適性を考え、選んだ職種で体験することになる。また、受け入れ事業所決定後は、細かな打ち合わせなどは生徒の手で行わせることで、活動を自分のものとしてとらえるよう、意識付けを図る。
- ・課題③に対しては、15年度の「事業所の方々からの評価」を一覧にして生徒へ提示し、社会人から見た中学生の活動への評価を知らせることで、社会の厳しさと現実を認識し、安易な気持ちで体験に臨まないよう意識付けを図る。また、課題②に対する取組でも触れたが、事業所との細かな打ち合わせなどは生徒の手で行わせるなど、社会人の方とできる限り話す機会を多く設定し、電話の応対や言葉遣いなどのマナー面の醸成を図るよう心がける。これらの取組を通して、次のような変容（生徒一人一人への深まり）を期待したい。

- ・生徒一人一人の職業観、勤労観の深まり（働くことの楽しさやつらさ、意義など）。
- ・自己分析、自己理解の深まり（特に職業への適性）。
- ・「職業」についての理解の深まり（1つの職業について深く知る。広く、様々な「職業」について知る）。
- ・社会性の深まり（挨拶や言葉遣い、マナーなどのしつけ面）。

3 活動の実際

(1) 職場体験学習へ向けての意識付け活動

① 15年度の進路学習の振り返りと全体計画の説明（6月下旬実施）

本校では「郷土に生きる人々に学ぶ」をテーマとして総合的な学習の時間を展開しており、2年生は「郷土に生きる人々との関わりをもちながら、職業人としての生き方について学び、自己の将来を真剣に考えてみよう」を学年テーマとして様々な学習活動を行っている。この学年は1年生の時に「職業調べ学習」として「身近な人への訪問インタビュー」を行い、職業選択の動機や、その仕事に対する意識などを直接合ってインタビュー形式で調査した。そして調査した結果をそれぞれが持ち寄って、「医療福祉分野」や「保安分野」などの職種ごと生徒自ら表や図などを用いて大洋紙にまとめ、教室前の廊下に掲示した。また、調査結果の発表会も開いた。生徒は発表会での発表や休み時間、総合的な学習の時間を使ってそれぞれの調査結果を見て、その後のワークシートで「この職業のこんなところがすごい」や「自分が関心をもった職業」などについてまとめ、それぞれの職業の仕事内容や必要な資格、よかったことや苦労したことなどを学習した。また、この学習を通して自分の進路に対する意識を少しずつ高まってきた。そこで、今まで自分たちが学んできたことを振り返らせ、その学習内容が今回の職場体験学習につながっているという意識をもたせるために、体験学習の全体説明を行う前に再度、教室前の廊下にその大洋紙を掲示して、生徒に1年生の時に学んだことを想起させるよう働きかけた。掲示後、生徒は自分たちが学習してきた内容を見て、お互いがそのときの様子や苦労話などを話している様子が見られた。その後、学年集会でワークシートを配布し、1年生の時の

だけでなく、活動を自分のものとしてしっかりとイメージ化させること、そして、自分の力で有意義な体験にしていこうとする意欲を育てることをねらいとしている。また、活動の様子を巡回する職員用やそれぞれの活動の確認のために「職場体験学習事業所別活動計画」〔図4〕の作成を事業所ごとに1枚作成するよう生徒にお願いした。

〔図3〕 職場体験実施計画書

〔図4〕 事業所別実施計画書

(2) 職場体験学習の実際と当日の様子

夏休み中の8月2日～8月27日の間の1日～4日間、生徒はそれぞれの事業所で体験学習を行った。体験先の事業所数は56カ所、1事業あたりの体験人数は多いところでも6名、ほとんどが2～3名での体験であった。また、体験日数は事業所ごとに異なるが、4日間が4カ所、3日間が10カ所、2日間が最も多く25カ所、1日のみは17カ所であった。主な体験職種と事業所数は〔表1〕の通りである。体験時間については、朝から晩まで（9：00～15：00）という事業所が多く、中には釣り船業のように朝4：30～12：00というところもあり、業種によって様々であった。慣れない手つきで老人の方々の手を拭いてあげたり〔写真1〕、「いらっしゃいませ」と元気にあいさつし販売に励み〔写真2〕、炎天下の中、杉の木の下草刈りに汗を流したり〔写真3〕、悪戦苦闘し教室では味わえない苦勞を感じながら、しかし活動に喜びを感じている、生き生きした生徒の姿がそこにあった。また、新聞社の方や、市役所の広報担当の方が生徒の活動の様子を取材に来て生徒にインタビューし、恥ずかしいそぶりを見せながら、満足そうな顔をしてそれに答える生徒の様子も見られた。生徒によっては、予定した体験時間を過ぎて職員の方々に質問をするなど、積極的に活動に取り組む姿も見られた。

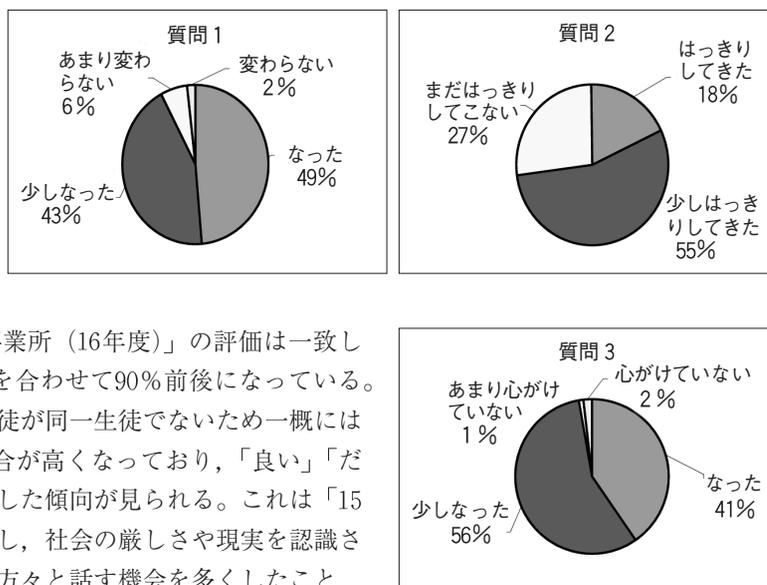
〔表1〕 体験先事業所と事業所数

事業所名	事業所数	事業所名	事業所数	事業所名	事業所数	事業所名	事業所数
幼稚園	1	コンピュータ関係	1	自衛隊	1	美容院	4
小学校	1	病院・医院	2	駅（JR）	1	飲食店	2
テレビ放送局	1	薬局	1	建設業	1	洋菓子店	3
ラジオ放送局	1	健康センター	1	電気設備設計	1	動物病院	1
新聞社	1	保育園	4	書道教室	1	スポーツ用品店	1
气象台	1	老人福祉施設	3	ビジネスホテル	1	スーパー	1
水族館	1	営林署	1	市役所	1	自動車整備	3
ピアノ調律	1	楽器店	1	画材店	1	釣り船業	1
工務店（大工）	2	工芸デザイン	1	裁判所	1	法務局	1
検察庁	1	童話作家	1	障害者福祉施設	1	鉄道運輸区	1

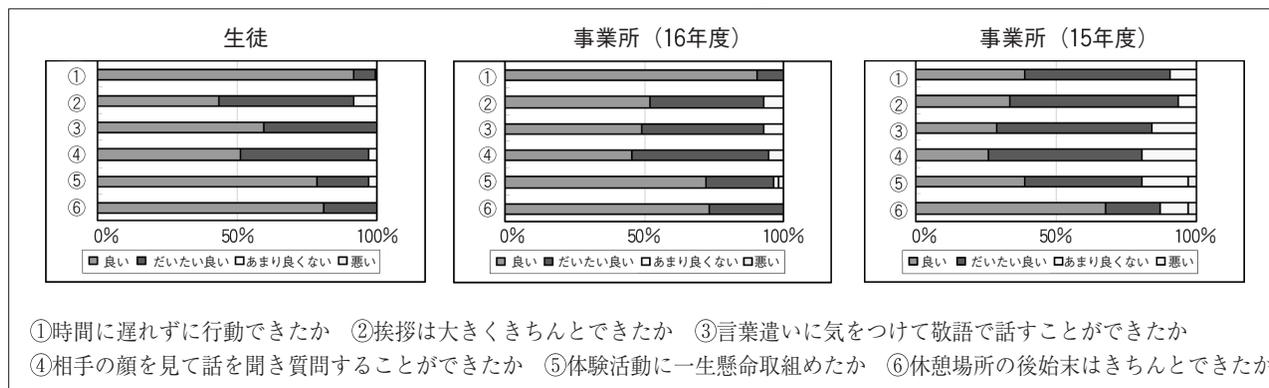
の適性や興味関心を考えさせ、「人から勧められた職種」ではなく「自分が希望した職種」で数日間、目的をもって体験学習に取り組んだ成果と言える。言葉遣いやマナー面に関する内容については、「質問3 職場体験後、言葉遣いや挨拶、場に応じた行動を心がけるようになりましたか」の問いに、「なった」「少しなった」と回答した生徒が96.5%になった。〔資料1〕「活動の振り返り」については、概ね「生徒」と「事業所（16年度）」の評価は一致しており、〔資料2〕「良い」「だいたい良い」を合わせて90%前後になっている。

また、15年度との比較で見ると、体験した生徒が同一年生でないため一概には言えないが、「良い」と回答した事業所の割合が高くなっており、「良い」「だいたい良い」を合わせても、15年度より向上した傾向が見られる。これは「15年度事業所の方々からの評価」を生徒に提示し、社会の厳しさや現実を認識させたこと、細かな打ち合わせなど、社会人の方々と話す機会を多くしたこと、さらに、この学年の15年度からの「総合的学習の時間」の取組の成果と言える。

〔資料1〕 職場体験学習アンケート



〔資料2〕 活動の振り返り



5 おわりに

今回の実践では、活動をより充実したものにするために、15年度より多くの、そして多種多様な事業所に活動への協力をお願いをした。その結果、職場体験学習の有効性と同時に、いくつか課題も見えてきた。まず体験先の確保である。職場体験学習では、多くの学校で事業所の確保が大きな課題である。今回の実践を通して、学校単独で多くの事業所を確保することには限界があると感じた。生徒の願いを叶え、より高い志をもった「社会人」を育てていくためには、「研究の目的と方法」でも触れた兵庫県の「トライやるウィーク」などのように、行政からのアプローチも必要だと痛感した。次にしつけ面の指導である。「考察」の「③言葉遣いに気をつけて敬語で話すことができたか」については、生徒側が過大評価をしている結果がうかがえる。「職場の方々からの評価」のコメントの中にも「大きな声で挨拶してほしい」「敬語が使えない生徒がいたので指導しました」など、「声の大きさ」「言葉遣い」に対する指摘がいくつか寄せられた。言葉遣いについては、普段の学校生活のみならず、家庭での継続的な取組も必要であると考えられる。最後に、今回の職場体験学習が、「自らの将来の方向性を見だし、今、将来のために自分が何をなすべきかを考え行動する生徒の育成」の一助になることを期待したい。

引用・参考文献

- 1) 新潟県中学校教育研究会進路指導部編『学級活動における進路指導の手引—平成元年度改訂版—』1989年 14～16pp
- 2) 新潟県中学校教育研究会進路指導部編『学級活動における進路指導の展開—平成10年度版—』1998年 139～145pp
- 3) 首相官邸ホームページ (<http://www.kantei.go.jp/jp/kyouiku/3bunkai/dai6/3-6gijiroku.html>)